

経過報告

「いわむろのみらい」創生プロジェクト

公園計画最終発表。

3月10日に行われた外部評価委員会での最終発表を終えて、公園計画担当教授である立花教授にお話を伺いました。



建築学科主任教授
立花直美

「岩室の自然再生 百年の計を考えよう」

岩室プロジェクトが、今年度、この時期に始まったことに感謝！

そしてまた、アートサイト3回目という岩室とムサビ卒業生の強いつながりに、感動です。この二つの条件が公園グループの背中を押してくれました。

第1回アートサイト岩室温泉2003でお世話になった経験を持つ院生と4年生が作品で恥をかくまいと発奮。短

期間で岩室の資料を集め、小
手先で終わらせない未来計画としての岩室のあり方にそれぞれ
の発想を展開させて議論
白熱。どこから手をつけるか、
呻吟は続きました。

一方で模型を造りながら、
連なる山々と緩傾斜で山から
平野へと流れるように広がる
山裾の地形景観に、誰もが見
入ってほればれと傾斜をなで
続け：やがて皆の意見が山裾
の森林再生へと収斂されてい
きました。

公共事業としての公園計画
では成り立たない構想提案で
す。しかし、それ以外にない、
と結論。これはどうしても実
行の糸口をつかみたいと、今
なお作業を続けています。

建築学科立花ゼミにおい
て半年に渡り取り組まれてき
た公園計画。今後これがどう
現実にかされてくるのか期
待されます。

(取材・赤松慎太郎)



▲学生の考える「いわむろのみらい」のカタチ



▲岩室の方との活発な意見交換がなされました

※『ムサビの風景』はお休みです。

編集後記

僕は目が悪い。だから常に
眼鏡やコンタクトレンズをつ
けて暮らしている。それらをつ
つけた視界は鮮明で、これが
通常の世界なのだと思ってい
る。

眼鏡やコンタクトレンズを
はずして外を歩いてみる。距
離感に分かる。色もある。た
だ解像度が落ちた感じだ。境
界が曖昧で滲んでいる。これ
は正確な世界の像ではないは
ずだ。だけど本当にそうだろ
うか。この世界が全ての人に
同じ様に見えるとは思え
ない。ある本は「人は色眼鏡
を通してしか世界を見ること
が出来ない」と言う。確かに
そうだ。皆それぞれ視点を
持つてものを見ている。視点

—色眼鏡—フィルター—先人
観…。それらを通してしかも
のを見ることが出来ない。僕
には本棚と本の隙間—関係—
は見えても背景紙の文字と余
白の関係は目に入らないわけ
だ。だからたまには眼鏡をは
ずしてみる。かけかえてみる。
そうする事で見えなかったも
のが見えてくる。世界の見え
方が変わってくる。建築学科
の僕にとって、この『いわむ
ろのみらい新聞』の編集、ひ
いては「いわむろのみらい」
創生プロジェクトはまさに眼
鏡をかけかえることだと思
う。岩室・ムサビ、僕に眼鏡
をかけかえる機会をくれた全
ての人に感謝します。

(第6号編集担当・赤松慎太郎)



発行

「いわむろのみらい」創生プロジェクト
いわむろのみらい新聞編集部
第6号編集担当 赤松慎太郎

連絡先

武蔵野美術大学/研究支援センター
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
Tel & Fax 042-342-7263

プロジェクトホームページ

<http://www.musabi.ac.jp/iwamuro/>

©「いわむろのみらい」創生プロジェクト 2007



いわむろのみらい新聞

第6号

2面～5面
 アートサイト岩室温泉 2007
 開催期間：3月2日～3月11日
 6面～7面
 コアコンセプト最終発表
 8面
 公園計画最終発表



甘酒ワゴン



劇団だいろ



旅館展示



IWA♡フェス



子供ワークショップ



チアリーディング



musabi-JAZZ



サンバ



よりなれ cafe

アートサイト 岩室温泉²⁰⁰⁷ 特集号！

作品選別、作家の方々や旅館との交渉にイベント企画、チラシやポスターの制作：全て学生主体で行われるアートサイト岩室温泉2007。
 3回目を迎えて成熟してきた岩室の方々との関係や周囲の様々な人々に支えられ見守られながら奔走したそれぞれのアートサイトを今、振り返ります。
 (文・小蘭優)

アートサイトを振り返って

旅館展示



アートサイトスタッフ
旅館展示責任者
秋山加奈

「ヒト×キュレーション」

アートサイトの展示は人に密着した展示でした。岩室の方々や作品制作者と協力してつくる展示空間、そこが新しいコミュニケーションの場となつて人の輪をさらに広げていく。この「人とのつながり」こそ、今回得たものの中で最も大きく、貴重なものだと思います。



▲旅館展示には連日多くのお客様がお見えになっていました

作者インタビュー



▲作品：『一人十色～自画像から顔立体を創る～』



作者
基礎デザイン学科
下村舞子

「環境で作品は変化する」

優しい町の方々、雪の降る山の景色、しよっぱい天然温泉…。とても魅力的な環境である岩室で今回自分の作品を展示させていただけたと思います。展示場所が旅館という特殊な場所であっただけに、作品をもう一度新鮮な目で見つめ直せた事が今回一番の収穫です。



▲実際に作品に触れてみる空間と作品と受け手の出会い

子供ワークショップ



▲貫頭着作りのひとコマ。何より楽しむことが第一です。みんな大はしゃぎでした



▲自分たちで作った貫頭着を着て踊る学生スタッフと子供達



▲かつぼうぎ隊におはぎをふるまっていたきました



アートサイトスタッフ
ワークショップ責任者
土師充貴

「体が感じるままに」

この企画は「イワムロック」踊る岩室魂」と名付け、貫頭衣を装飾し、リズムにのって踊ろう！というものでした。岩室子ども会、かつぼうぎ隊のお陰もあり、大成功で終えることができ、普段味わうことのできない心躍る体験が出来たと思います。

の特徴と魅力を表現しています。岩室の未来のかたちを明確にイメージするために、ムサビ学生として積極的に取り組み、また外からの視点で客観的に考え、コアコンセプトを固めていきました。未だ抽象的ではあるものの、これから始まる多数のプロジェクトに応用していける提案となつているように思われます。

外部評価委員会の方々からは、今回の発表を受けて、たくさんのご指摘とアドバイスを頂きました。「誰がほつとするのか、ほつとさせてくれるのかを明快に。まちづくりの基本は住民がほつとすることではないだろうか」、「経済効果をどれだけ生み出せるか考慮しながら、ターゲットやPRを考えること」、「もっと住民参加型にしていけないといけない」等、これからますます対応していかなければならぬ事が浮かび上がっています。

(文)小林つばら



▶ 外部評価委員、えにし屋・新潟県地域づくりアドバイザーの清水義晴氏



▶ ほてる大橋、会場の様子



▶ コアコンセプトの発表をする宮島教授



(撮影)坂本政十郎氏

▲(株)第四銀行 金融サービス部 部長の渡辺和憲氏



▲(株)GK設計・環境デザイナーの宮沢功氏

外部評価委員会とは？

「いわむろのみらい創生プロジェクト」のために編成された、6名の方々による委員会です。岩室とムサビが関わり合う上で、第三者の立場からプロジェクト全体を客観的に考察し、幅広く専門的な視点からの意見を提示して頂いています。

※長野県小布施町長の市村良三氏はやむを得ない理由で欠席されました



2月7日 第2弾発表
岩室公会堂で行われた、学生による、いわむろのみらい研究会に向けたコアコンセプト発表の様子です。



(撮影)坂本政十郎氏

▲新潟市都市整備局 街づくり推進課 課長 池田博俊氏



(撮影)坂本政十郎氏

▲JTБ 関東関東新潟支店 副支店長 高橋博氏

どしどし送ってね♪



あなたの考える「いわむろのみらい」は？

コアコンセプトについて、「こんな岩室もあるよ!」、「これは違うんじゃない?」等々…皆さんの意見や質問、岩室への思い、どんなことでも是非聞かせてください! 手紙でもEメールでも結構です。

あて先:
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
「武蔵野美術大学/研究支援センター」宛
Fax: 042-342-7263
Eメール: iwamurocore@gmail.com

どうぞよろしくおねがいします!

お返事
まっています
♡



劇団だいろ



アートサイトスタッフ
劇団だいろ 演者
野村奈央

「だいろの輪」

岩室民話を現代風にアレンジした脚本に、手作りの人形、それに名俳優たち。全てが手作りの人形劇団、「劇団だいろ」。

見にきて下さった方たちの笑い声、笑顔、拍手に後押しされ、とても楽しく演じることができました。岩室の皆さん、どうもありがとうございます。



▲松と杉の妖精の姉妹役を演じた2人

IWA♡フェス



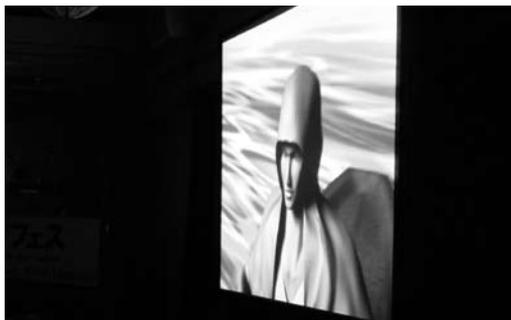
アートサイトスタッフ
IWA♡フェス 責任者
水本真梨乃

「ありがとう♡ IWA♡フェス」

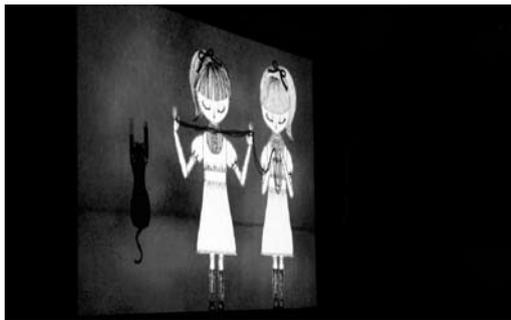
IWA♡フェスは多くの方々の温かい協力により実現しました。イベントとは色々な人の力が合わさって成り立つものだと改めて感じました。お客様や出演者の方々の笑顔が私の喜びです。皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。



▲見事なコラボレーションを見せてくれた岩室の芸妓さんとムサビのパンチスタ



▲CGを用いたアニメーション・ムサビ生の卒業作品



▲手描きのアニメーション・ムサビ生の卒業作品

サンバ



▲熱いダンスで寒さを吹き飛ばしてくれました

よりなれ cafe



アートサイトスタッフ
よりなれ cafe 責任者
横山健太郎

「よりなれによりなれ」

店長の横山健太郎です。

よりなれ Cafeでは主にインフォメーション、通期ワークショップ、飲み物などのサービス業務をさせて頂きました。

岩室の方や観光客の方々との貴重な出会いにも多く恵まれ、楽しい時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございます！

チアリーディング



▼華麗な振り付けを披露してくれました



▲皆様の温かい声援に包まれ、大盛況のうちに終了しました



▲かっぱうぎ隊の甘酒、心も体もあたたまりました！ ▲手作りの甘酒を各所でふるまっていたきました

▼今年は新聞・雑誌・TV・ラジオと様々なメディアで取り上げられました



アートサイト責任者
芸術文化学科教授
榎義明

アートサイトに見た夢

2月末、展示作品を満載したトラック4台とともに訪れた岩室は、朝からの風雨が止み、抜けるような青空と、季節に不似合いの温かさで我々を迎えてくれました。明け方

まで準備に追われ、大学から疲労困憊のなかで移動してきた学生達が、これから始まる大イベントの幸運を予感して一気に元気を取り戻した瞬間でした。現代GP「いわむろのみらい」創生プロジェクトのさまざまなプログラムの中で、アートサイト岩室温泉2007だけが第3回目という歴史を持ちます。「アートサイトだけは特別なんです」という岩室の方々の声も聞きました。その特別な期待感に対して、我々がどこまで答

えることができたかは、これから学生達とじっくり振り返りたいと思っています。お祭りの渦中の興奮から少し時間が経ち、改めて感じるのが沢山あります。社会の様々な事象が猛スピードで変化するなかで、私達は明日の希望を、それぞれの実感として掴むことができなくなっています。しかし、アートサイト岩室温泉2007にはそれがありません。関わった人達みんな、大きな「夢」をみたのです。アートの力を信

じて、人の手と、人の心の奥底にある熱意あるいは信頼感というものが、小さな地域に大きな「みらい」の夢の種を植えたのではないのでしょうか。無い袖は振れない、と言いますが、夢がなくては未来もありません。その夢が存在したことが、何より大切なことです。アートサイト岩室温泉2007の実践的な運営を任された学生達には、授業で知識として学んだことの実践として、まことに有効な体験でした。し

かし今回は、職業教育という視点以上の人としての心の教育の場として、素晴らしい体験をさせていただいたと感じています。人の心の深さ広さという価値を知ったということ。また立場によらない、人としてのコミュニケーションの意味も知った筈です。時には厳しく、そして常に暖かい眼差しで学生を見守っていただいた岩室の方々に、深く深く感謝申し上げます。

経過報告

「いわむろのみらい」創生プロジェクト

コアコンセプト最終発表。

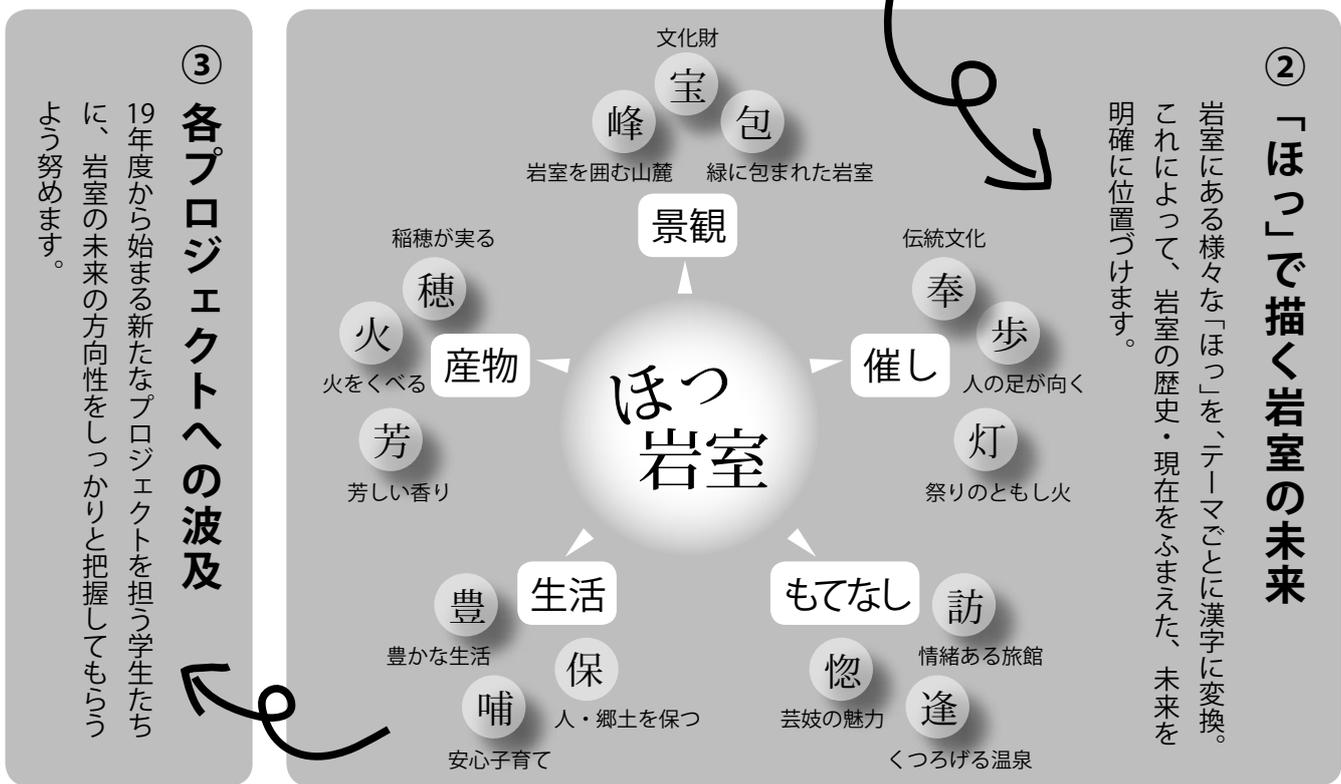
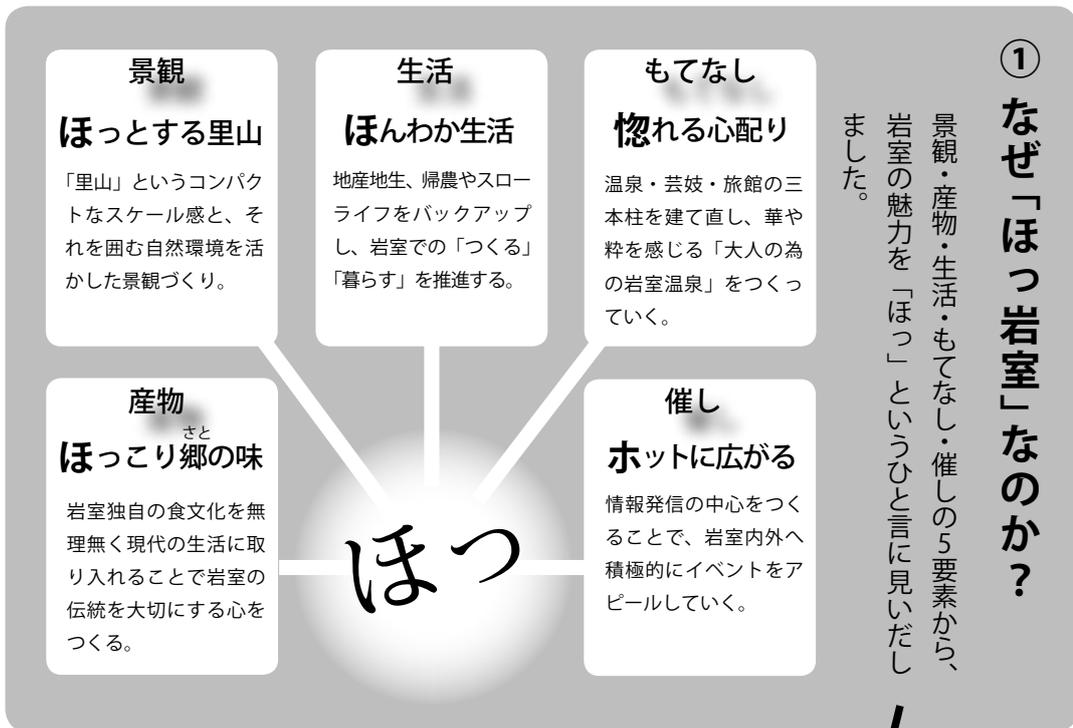
昨年の9月から始まり、

着々と進められてきた「いわむろのみらい」創生プロジェクト。

その指針となるコアコンセプトと共に、18年度のマーク・ロゴデザインとアートサイト、そして先月号でもピックアップした観光複合施設計画と公園計画の実施報告が、遂に3月10日、岩室のほてる大橋にて、外部評価委員会に向け行われました。

今後また様々なプロジェクトが始動する上で、岩室とムサビがひとつの方向にしっかりと向かっていくために、とても重要なコアコンセプト。これを担当しているコアグループは、2回の中間発表を経て、岩室の景観・産物・生活・もてなし・催しという5つの側面から、岩室ならではの特性についてリサーチを深めていきました。

今回の最終発表では、「ほっ岩室」という言葉を打ち出し、その言葉に含まれる様々な岩室



③ 各プロジェクトへの波及

19年度から始まる新たなプロジェクトを担う学生たちに、岩室の未来の方向性をしっかりと把握してもらうよう努めます。



アートサイトスタッフ
マネジメント総括
高倉啓一郎

「アートサイト。」

岩室と僕と、ときどき雪」

岩室から東京に戻ってきては
はや2週間。振り返ってみると、
本当に嵐のような日々
やった。気がつけば、帰りの
バスの中。高速のサービス

エリアに積もった雪の中に、つ
なぎに赤ジャン、岩室温泉の
ハッピー、黄色のタオルを頭に
かぶった大男は気持ち良さそうに
飛び込んでいました。
さて、何から書いていこうか。
本当は、ありがとうと伝えたい
人全員を挙げて、それで終わろ
うと思っただけ、考えて5
秒。不可能なことに気づきまし
た。(苦笑) それで、よくよく
考えてみると、僕はものすごい
多くの人に助けられていたんや
と再確認しました。この場をか

りて、もう一度アートサイトに
携わったすべての人にお礼を言
わせて下さい。ありがとうございます。
アートサイト期間中は、本当
に色々なことがありました。本
当に。何をどう書いていいのか
わからないくらいです。自分の
中でも、色々気持ちの変化が
ありました。元々自分勝手に
突っ走るタイプの僕。あんま
し、他人の意見も聞かないとこ
もあるし、統括としては正直ど
うやったんやると今でも思いま

す。でも、ひとつだけ、この
アートサイトのためなら何でも
やったるわと心に決めていたこ
とは本当です。だって僕は、こ
のアートサイトに学生スタッフ
として参加するのは最初で最後
と考えていたので。たとえば、も
し再び学生スタッフになれたと
しても、統括は多分やらんと思
います。
今考えていることは、アート
サイト2007についてではな
くて、いかに2009をより良
いものにするかということだ

けです。自分のなかでも初め
ての体験やった、吹雪。雪は
いつかは解けて消えるけど、
アートサイトはずっとずっと
積もっていかせたいと強く思
います。
最後に、このアートサイト
は、僕にとつてはひとつの始
まりにすぎんのかなと感じま
した。これからアートサイト、
岩室、武蔵美、自分自身。。
輝かしい未来が訪れると心の
底から信じています。



▲旅館に現れた巨大なフランスパン
子供達は自由に乘って遊んでいました



▲日常の世界に突如現れた「異質」
子供達の目にはどのように映ったのでしょうか



▲ムサビ生の奏でるジャズメロディーがホテルのロビーを
演出しました

musabi-JAZZ



▲愉快的 JAZZ メンバー
期間中大いにアートサイトを盛り上げてくれました